

# しいのき



## 樹木を守った味噌屋さん

名誉館長 三 隅 治 雄

都会地から年々樹木が失われて、「緑を取りもどせ」の運動がさげられる昨今です。当中野区でも同様ですが、そうしたなかで、工場拡張の計画をもつ味噌屋さんが、建設予定地にケヤキの大木があり、それが遠い先祖の代からのものだったので伐るにしのびず、ついに拡張計画を取り止めたという話がありました。上の写真がそれで、亭々と天にのびる大樹のすがたがみごとです。きっと当家の人々は、その樹木に歴代この地に汗した御先祖の魂のやどりを感じたに違いありません。もともと日本人は、山野に茂る樹木を生命あるものと見、とくに眼立たしい形状のものや、匂いのあるもの、特別の場に立つものなどに対しては、神秘的な靈感がやどると観じて、供物を献じてさまさまの祈願をささげたものでした。おがめば子が授かる、縁が結ばれる、乳が出る、豊作がのぞまれるなどがそれで、逆に触れるとたたりをする樹もあり、だから街路にあっても伐らずに車が迂回するという例もありました。樹木を畏敬した日本人の民俗のなごりです。

# 特別企画展 木の文化—かたちとぬくもり—

平成6年10月1日(土)～11月19日(土)開催

10月8日は、「木の日」です。これは、「十」と「八」を組み合わせると「木」という字になることからきています。

私たちの身の回りを振り返ってみると、木を素材としたものがたいへん多いことが分かります。とくに、かつて使われてきた生活用品は、木の製品のものを中心でした。その後プラスチックなどの新素材にかわりますが、近年再び活用されるようになってきています。

本企画展では、こうした木の製品を中心に日本文化を辿っていくものですが、ここでは、木の性質とそれを活かした製品を紹介します。

## 加工しやすい

森林資源に恵まれた日本では、木は身近な素材であり、石や鉄に比べて加工しやすいことから、さまざまな形に加工されて、活用されてきました。法隆寺や東大寺などの大きな建造物をはじめ、家具や調度品、そして箸やつま楊子にいたるまで、広範囲にわたっています。

## 音をよく伝える

けやき一枚板は、玄関に吊し、槌でたたいて来訪をつけるのに使います。このほか、カスタネットなどの楽器や木魚に使われる木も音を良く伝える木が使われます。

## 木目を生かしている



## 吸湿性に富む

吸湿性に富んでいるという性質を利用した建造物で有名なのが、奈良県東大寺の正倉院です。三角形の断面をもつ材木を組み合わせた椽<sup>きら</sup>構造の構造で、雨が降ると木が膨らんで外気をしめきり、天気の良い日は木が乾燥して中の品物が蒸れないようなくみになっています。

また、簞<sup>たな</sup>も湿度が高くなると木の目がつまって、引き出しの中の衣装を湿らせないようになっています。

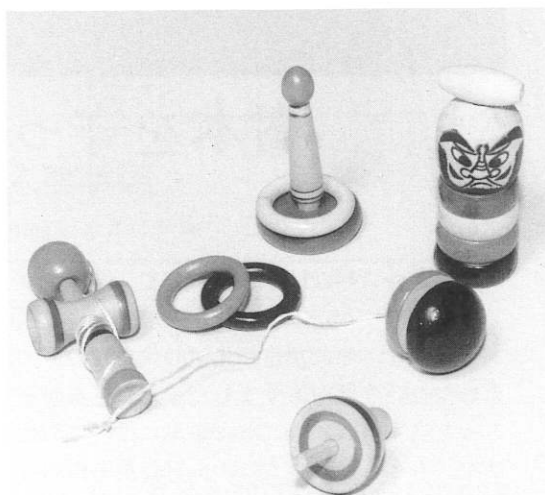
## 硬い木・柔らかい木

斧の柄が折れるほど硬いというのでその名がついたオノオレカンバは、乾湿による狂いが少ないことから、高価な調度品や美術品に使われます。また印鑑も材質の堅いツゲが使われます。

逆に、まないたに使う木は、硬すぎると包丁がいたむので、柳やイチヨウのような軟らかく水に強い木が使われます。

## 肌触りが柔らかく、温もりがある

(実際にさわって感触を楽しんでもらうコーナーも設けてあります)



・詳しくは特別企画展図録『木の文化』を販売しておりますので御覧下さい。また、いろいろな木の輪切りを販売しております。花台やプレートなどに活用してみたいかたがでしょうか。

# 文化財よもやま話

# 大地に眠る歴史

## 箸のはなし

一番身近で、需要のある木の道具といえば、それは箸ではないでしょうか。それ故に箸をめぐる論争もありました。割箸論争です。森林保護と使捨ての習慣を考え直すという立場から割箸廃止が検討され、合成樹脂製に替わった施設も多いようです。しかしこれに対して、割箸は間伐材を使用しているので、割箸の廃止によって間伐材の需要が減少し、かえって森林が荒れているとの声もあがっています。小さな道具ですが、毎日の食生活を支えている箸について見ていきましょう。

日本の文献において、初めて「箸」という言葉が出現したのは『古事記』です。『古事記』は日本最古の歴史書であり、8世紀に作られました。そこには天界から追放された須佐之男命すさのおのみことが川上から流れてくる箸に目をとめ、上流に人が住んでいることに気付いたという神話がのっています。また中野では聞くことが出来ませんでした。箸にまつわる伝説も多く、埼玉県岩槻市には太田道灌の『箸立杉』という話がありました。これは、道灌が食後に庭にさした2本の箸が後に大木になったというものです。更に箸についてのことわざは数えきれない程で、このように伝説やことわざに頻繁ひんぱんに出てくる箸は、非常に日本人との結びつきが強いといえます。

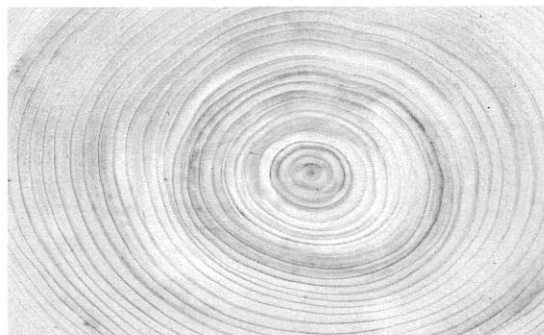
また、箸と一口にいてもいろいろな種類があることを御存知でしょうか。例えば正月や結婚式に用いられる両口箸は、両方の端を使って食べることが出来ます。そしてハレの日に用いられるため、邪気を払う霊木とされている柳の木で出来ています。

中野区内の学校では、昭和59年1月から給食で箸を使いはじめました。先割れスプーン使用の反省、パン中心の給食から米飯給食へという流れの中で、食文化についての正しい認識つひを培って欲しいと行われたものです。私たちも文化を次世代へ伝える者として、身近なところから興味を広げたいものです。

## 年輪が語ること

木には、年輪があります。年輪の幅は北側が狭く、南側が広いということは誰でも知っているあたりまえのことですが、もっと細かく見ていきますと、温暖な年、寒冷な年、雨の多い年、乾燥していた年といった、各年の気候の状態によって、微妙に年輪幅が異なっていることが明らかにされています。この原理を応用すると、非常に正確に年代の測定ができることが、今世紀のはじめにアメリカの天文学者によって発見されました。

現在、様々な科学的年代測定法の中でも、最も正確なものとして、いまや先進各国で研究が進められているのが、この年輪年代測定法です。



▲年輪は気候に敏感に反応します。

年輪の粗密による年々の変化の流れに、遺跡から出土した木材の年輪をつなぎあわせて、さかのぼりながら、長い年代にわたる変化パターンを作成するものです。そして、年代を知りたい遺跡出土の木材や古建築材の年輪幅がどの部分に一致するかを見て、その伐採年代が判明するのです。

この方法で現在ドイツでは紀元前700年前まで、年代を正確に把握できるまでになっているそうです。わが国でも、奈良国立文化財研究所などで、コウヤマキやヒノキといった木材を利用して、研究が進められています。この研究が進み、将来、法隆寺は新しかったなどと衝撃的な結果がでるかもしれません。

もの言わぬ太古の年輪たちがいまや私たち人間にその存在をアピールしはじめているのです。ともすれば彼等は地球の将来をも、我々に提示してくれるのかもしれませんが。



# 事業報告

## 各種事業経過

1994年7月～9月

事業名	内容	期間
企画展	「青梅街道中野村 みそ・そば・しょうゆ…」	7/19～9/10
	「学童疎開50周年写真展」	7/19～9/10
歴史講座	見方を知ろう文化財	～7/30
	「歌舞伎の視点」 講師 三隅治雄氏 (実践女子大学教授)	7/2
	「埴輪が語るもの」 講師 市毛勲氏 (早稲田大学文化財調査室主任)	7/9
	「浮世絵鑑賞の心得」 講師 横田洋一氏 (神奈川県立博物館主任研究員)	7/16
	「絵馬のこころ」 講師 佐々木利和氏 (東京国立博物館研究指導室長)	7/23
	「古伊万里の美」 講師 西田宏子氏 (根津美術館学芸部長)	7/30
文化財調査	区内寺院文化財調査	継続中
その他	学芸員実習：7校(8名)	7/26～8/7
	郷土学習相談室	8/23～8/26
	全館消毒・清掃	9/17～9/21
	御嶽遺跡発掘調査	～9/30



▲郷土学習相談室

## 寄贈資料一覧 1994年4月14日～1994年5月18日

敬称略・受入順

資料名	点数	氏名
脚付無蓋罎・郷土玩具他	41	露無 健治
杯・携帯用ひげそり	2	岸 銀太郎
兜揃い	1	田村 一郎
三本鋏他	3	小島義三郎
下駄	1	下芝さらお
農耕具・皿他	一式	高橋紋兵衛
五月人形	一式	本橋 顕吉
ゲードル・巻尺・洗濯ばさみ	3	東風谷ゆき
板碑	3	大滝 和子
百人一首	1	寺田 嘉弥

◎貴重な資料をありがとうございました。厚くお礼申し上げます。

## NEWS

- ★特別企画展は、「木の文化展—かたちとぬくもり—」です。木を素材とした生活道具を通して、日本の文化を探っていきます。  
期間：10月1日(土)～11月19日(土)
- ★古文書講座が行われます。温故知新の意気込みで、江戸時代の人々の心を知ってみてください。
- ★御嶽遺跡の発掘調査は終了いたしました。貴重な成果は、色々の場で随時報告していく予定です。

## 入館状況

1994年6月～8月

(人)

一般	社教団体	学校教育	合計
8,979	69	46	9,094

発行年月日 1994年10月1日

山崎記念  
編集・発行  中野区立歴史民俗資料館

〒165 東京都中野区江古田4-3-4

☎ 03(3319)9221 FAX 03(3319)9119

(印刷物登録番号 6中教社第6号)